

日本労働年鑑 第52集 1982年版

The Labour Year Book of Japan 1982

第二部 労働運動

XII 人権擁護運動

3 日本国民救援会

日本国民救援会は、一九八〇年八月三〇日から九月一日にかけて、大津市で第三五回全国大会を開催した。大会には四三都道府県から三五五名の代議員、役員が出席した。第一号議案「闘いの総括」、第二号議案「運動方針」、第三号議案「決算報告と予算案、会計監査報告」が提案され、いずれも可決されたあと、会長岡崎一夫氏以下の役員を選出した。前年の第三四回大会以後、長崎県、茨城県、山形県、福井県に各県本部が結成され、全国で新たに一七支部が結成され、会員は二二〇〇人増加したことが報告された。そして、来年の全国大会までに、会員を三五〇〇名拡大して、二万一〇〇〇名の会員を実現し、県本部としては、新たに福島、富山、石川、山口、大分の五支部を県本部とし、全国的に組織を拡大、整備する方針がきめられた。金川三郎事務局長の「討論のまとめ」の発言は、大会での代議員の発言を総括しながら「そのことは救援会が弾圧反対の闘いを基本としながら、真に人権と民主主義を守るセンターとしての役割を、いっそうつよく果たすことを求められていることを示しています」と述べている。

第一号議案はつぎの項目に分れている。

一、昨年の総選挙と衆参同時選挙での弾圧反対闘争((1)昨年の総選挙における弾圧反対闘争、(2)参院選公示前の弾圧とのたたかい、(3)衆参同時選挙公示後の弾圧とのたたかい)、二、最高裁判官の国民審査運動について、三、弾圧とたたかう学習運動について、四、第三三回三・一八合葬追悼会について、五、七九年度年末統一カンパ運動について。

第二号議案は次の項目に分れている。

一、救援運動をめぐる情勢の特徴((1)鈴木内閣の反動的な体質、(2)小選挙区制を異常な熱意で推進、(3)憲法改悪の動き、(4)救援運動の分野でのきびしい情勢、(5)「救援センター」などの動き)、二、たたかひの課題と方針((1)選挙弾圧裁判、(2)日常的な弾圧や権力犯罪を許さないたたかひ、(3)労働事件、職場に自由と民主主義を、(4)集団暴力裁判、(5)再審と冤罪事件、(6)司法の反動化阻止と諸法規改悪反対、(7)国際連帯について)三、組織の拡大強化について、((1)一年間の拡大の総括、また、向こう一年間の拡大計画)、四、財政活動の強化と改善。

閉会に際して発表された大会宣言はつぎのとおりであった。

日本国民救援会は、一九八〇年八月三十日から九月一日までの三日間、滋賀県びわ湖畔のアヤハ会館において第三十五回全国大会を開催しました。大会には北海道、沖縄をはじめ全国四十三都道府県の代表三百五十五名が出席して、各地の具体的な経験、教訓を報告し、中央常任委員会から提案された活動報告と方針をいっそうふかめ豊かなものとするとして満場一致採択しました。

三日間の討論では、この一年間に四件の違憲無罪の判決をかちとった選挙弾圧事件の闘いの報告や、権力の不当な起訴にたいして怒りを燃やし胸をはって新たな闘いの

決意をのべる仲間。警察の違法な捜査活動を監視する「民間パトロール隊」の活動を、意気高く報告する仲間。十余年におよぶ不当労働行為の裁判に勝利し、晴れて職場にもどった仲間の輝きと確信に満ちた感謝の報告。警察・検察権力の不当なデッチあげに怒りの声をふるわせて「みなさん、助けてください」と訴えるえん罪事件の被告。八十歳、百歳になっても息子の無罪を晴らすまでたたかうと、歯を食いしばって訴える獄中被告の母などなど、心をふるう思いの報告、訴えがなされました。

これらのことは、こんにち日本国民救援会の活動にたいする期待が、どれほど大きく広範なものであるかを示しています。

また大会では救援会組織の拡大について、新しく県本部を結成した四つの県、昨年の全国大会決定の拡大目録を達成した十五都道府県本部、五十名以上拡大した十支部、三十名以上拡大した三十名の仲間などの活動が報告されました。このように多くの拡大運動がとりこまれたことは、日本国民救援会の五十二年の歴史を通じて初めてのことです。組織拡大運動は、いまや日本国民救援会の運動の本流のひとつとして、たくましく息吹きをもって発展していることを示しています。

わたくしたちは、この意気込みをもって、本大会が決定した組織拡大三ヵ年計画最終年度の目標を必ずやり遂げるであります。

そしてこのことは、本大会を通じて日本国民救援会によせられた全国いく百いく千の犠牲者の闘いと、救援活動に応えられるひとつの道であることをつよく自覚するものであります。本会の事業にたいして、正義と真実を愛する全国各界各層の方がたの暖かいご支援に心から感謝するとともに、ひきつづき今後ともいっそうご指導ご援助を訴えるものです。

救援会創立以来五十二年、永い闘いの歴史とその教訓のうえに立って、さまざまな逆流を伴う今日の複雑な情勢を正しくとらえ、ゆるぎない確信をもって栄誉ある本会の任務達成のため全力を尽す決意を表明するものです。右宣言します。

一九八〇年九月一日 日本国民救援会第三十五回全国大会

【参考資料】(1)『救援新聞』(日本国民救援会機関紙)、(2)『再審通信』(日弁連・再審法改正部会)、(3)『刑事再審の研究』(鴨良弼編、成文堂刊)

日本労働年鑑 第52集 1982年版
発行 1981年11月30日
編著 法政大学大原社会問題研究所
発行所 労働旬報社
2001年9月18日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1982年版(第52集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
